

**製品名: ENTPD5 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe84556**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 48 kDa ; Observed MW: 47 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ENTPD5
別名	CD39L4; Entpd5; mNTPase; NTPDase 5; PCPH; UDPase ENTPD5;;ENTPD5
遺伝子 ID	
SwissProt ID	O75356
免疫原	ヒト ENTPD5 由来の合成ペプチド

**背景**

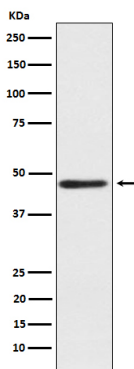
小胞体腔内において、UDP を加水分解します。UDP は、UDP-Glc: 糖タンパク質グルコシルトランスフェラーゼの最終生成物フィー

ドバック阻害因子として機能します。UMP は UDP-糖アンチポーターによって細胞質へ輸送され、そこで UDP-グルコースの再生に使用されます。したがって、UMP は小胞体腔内から UDP を除去し、UDP-グルコースの再生を促進することで、タンパク質の再グルコシル化を正に制御します。タンパク質の再グルコシル化は、小胞体における糖タンパク質の適切なフォールディングと品質管理に不可欠です。

## 研究分野

-

## 画像データ



胎児肝臓溶解液中の ENTPD5 発現のウエスタンブロット分析。